

備えあれば憂いなし

9月は「防災月間」です。

1923年9月の関東大震災や、繰り返される台風・豪雨被害を踏まえ、災害に備えることを目的に制定されました。

大学、そして大学病院は、**いかなる状況にあっても地域のために機能を維持し続ける責務を担っています。**

その体制を支えるのは、職員一人ひとりの意識と行動です。

避難経路や非常用備品の確認に加えて、帰宅困難や通勤困難といった事態にも備えておくことが大切です。

日頃から準備しておくことが、いざという時に大きな力となります。

そして今月は、**防災に関する皆さまの気づきや、組織としての脆弱性などについて、ぜひ意見箱にお寄せください。**

現場からの声こそが、大学・病院の**強靭さを高める大切な糧**になります。

災害級の豪雨や地震にも揺るがない体制づくりを、共に築いていきましょう。

大阪医科大学 職員部門代表者一同

設置の意見箱は、まず職員代表が内容確認し、必要に応じて各部門代表者らと協議し、場合によっては法人に対し改善・対応要求を行っているものです。大学・法人への直接のご意見箱ではございません。